

# 決算説明会資料

## 2005年12月期

2006年3月3日(金)

## 2005年12月期の業績概要と経営課題の成果

執行役員 伊豫田 直記

## 事業環境と中期の方針および中期の目標 2006年12月期の業績予想

代表取締役社長 木村 良

# 2005年12月期の業績概要 と経営課題の成果

2004年12月期より当社は決算期を従来の9月末から12月末に変更いたしました。従って、2004年12月期は3ヶ月の変則決算となりました。

このため、2005年12月期の決算説明会資料において前期対比を予想対比に替えて説明いたします。

# 連結損益計算書の概要

単位:百万円

項目	2005年12月期 実績	2005年12月期 予想	差異	予想比	2004年9月期 実績(参考)
売上高	95,437	98,000	2,563	97%	105,432
売上原価	88,285	90,300	2,015	97%	98,194
売上総利益	7,152	7,700	548	92%	7,237
販管費	6,486	6,900	414	94%	7,126
営業利益	666	800	134	83%	110
経常利益	532	510	+22	104%	226
特別損益	41	0	+41	-	191
純利益	290	350	60	82%	1,166

売上高

米穀セグメントの販売数量は増加、販売価格は低下

売上原価

米穀セグメントの仕入価格は低下、食品セグメントの原価率は上昇

販管費

人件費、一般管理費などの削減、連結従業員2004年12月末比 18名。

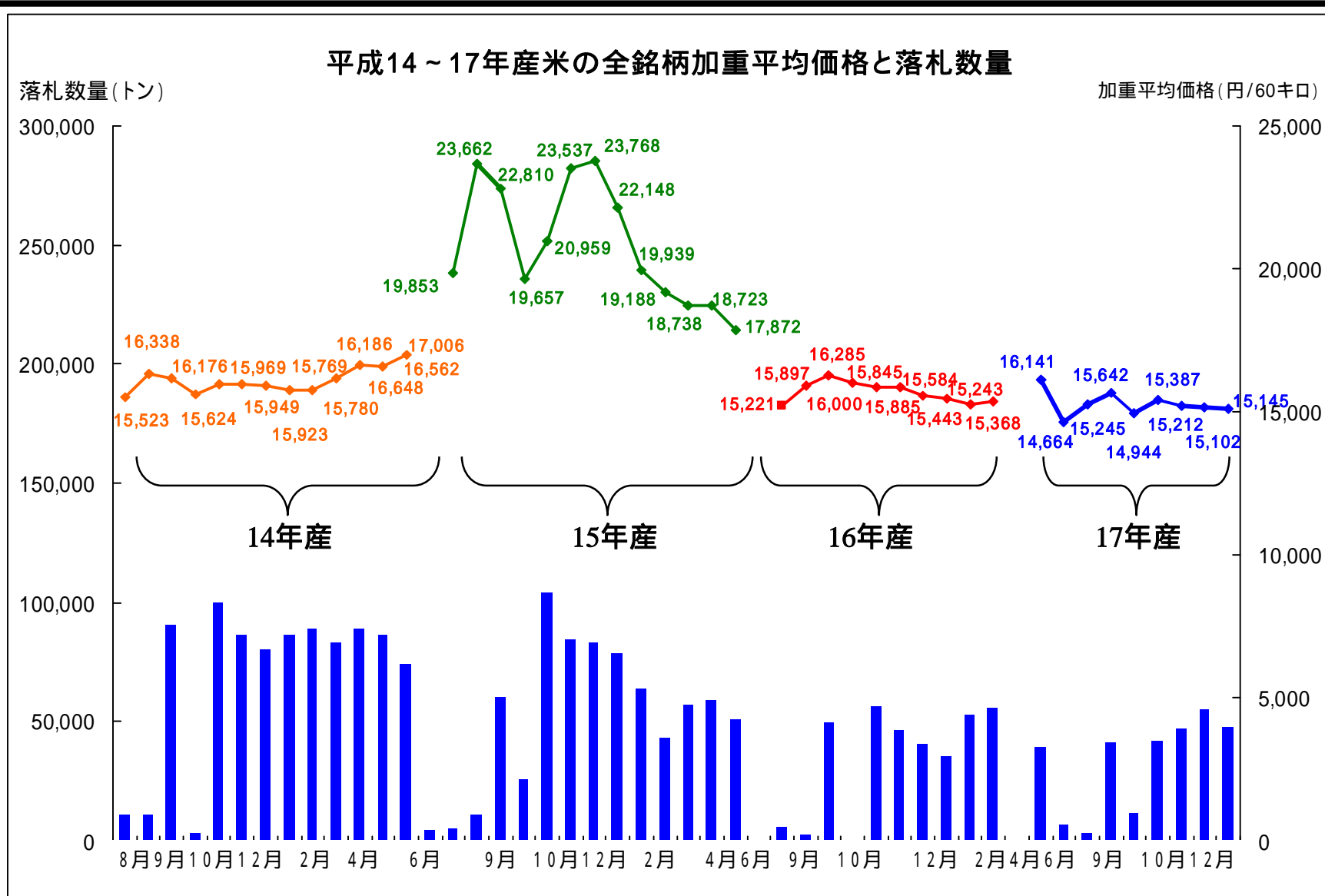
経常利益

支払利息は減少、デリバティブ評価益が寄与

特別損益

固定資産の売却益等

# 米穀の平均価格と落札数量



出典: コメ価格センター資料を基に当社作成

# 連結貸借対照表の概要

単位:百万円

項目	2005年12月末	2004年12月末	差異	2004年9月末(参考)
資産合計	30,058	35,914	5,856	32,218
負債合計	25,209	31,442	6,233	27,840
少数株主持分	426	477	51	472
資本合計	4,422	3,994	+428	3,904
有利子負債合計	17,554	23,284	5,730	20,892

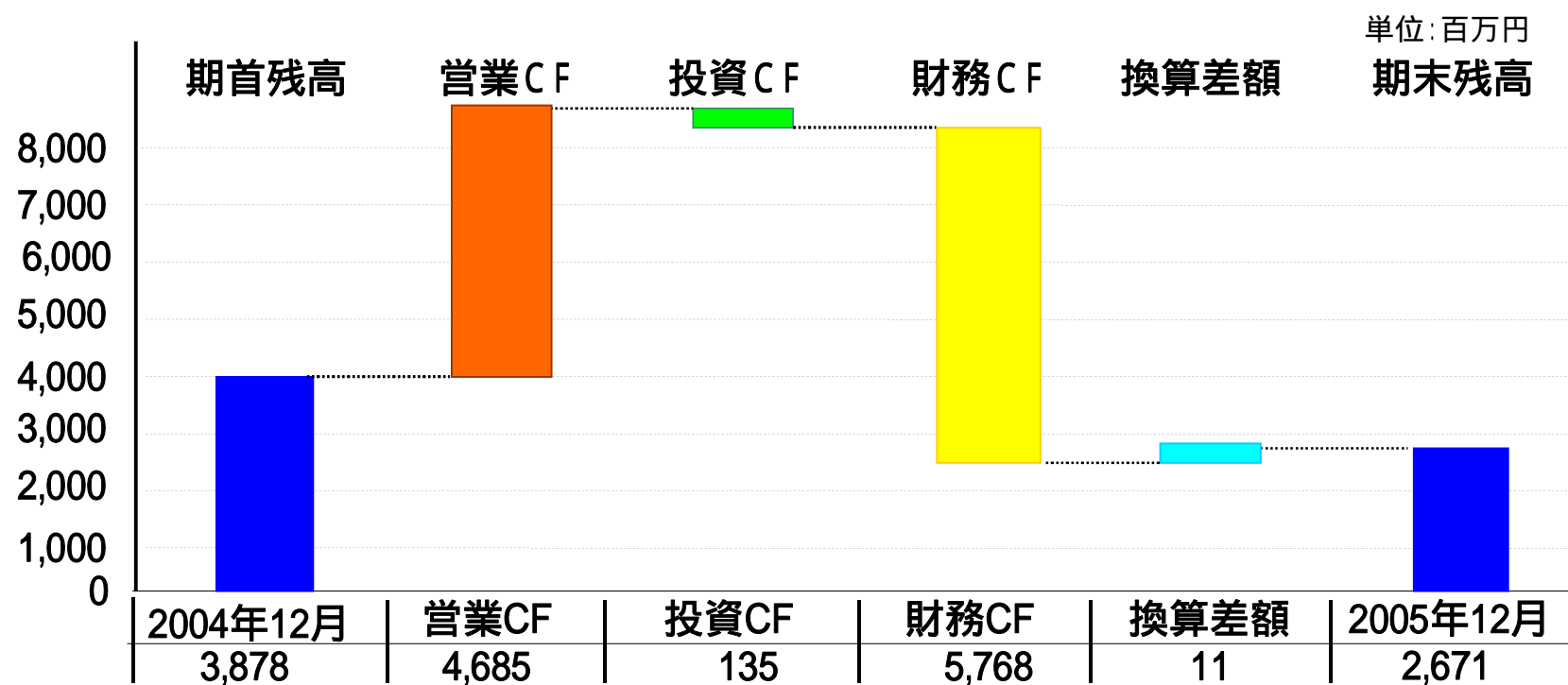
設備投資額 270百万円、減価償却実施額 900百万円。

現預金 圧縮促進 1,068百万円圧縮  
 たな卸資産 在庫の平常化 2,625百万円削減、15日間分在庫水準に  
 未収入金 回収促進 566百万円削減

短期借入金 3,728百万円削減  
 長期借入金 2,025百万円削減  
 社債の償還 300百万円

設備投資額 食品事業の米粉設備に投資

# 連結キャッシュフローの概要



営業CF たな卸資産 2,615百万円、未収入金 509百万円、収益の回復 573百万円

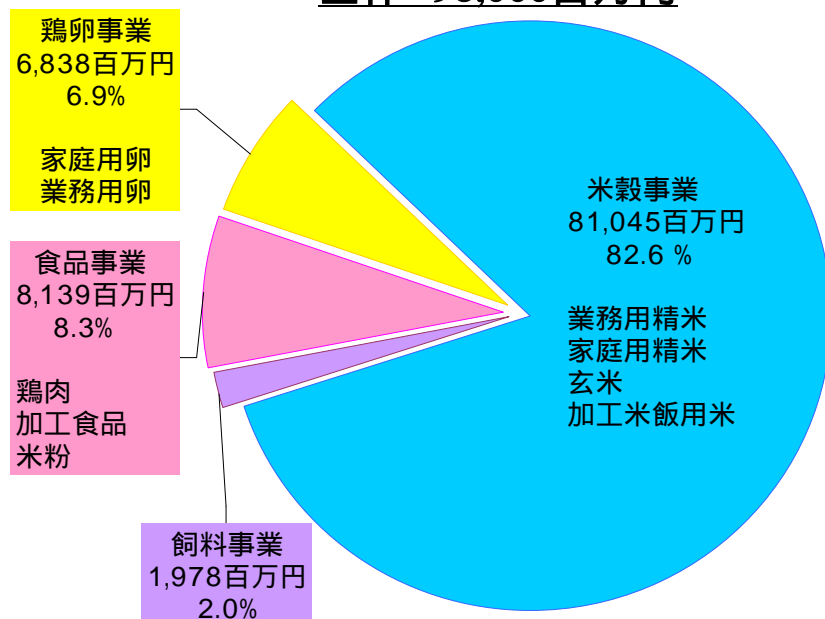
投資CF 設備投資額 270百万円、関係会社出資金 34百万円

財務CF 短期借入金 3,728百万円、長期借入金 2,025百万円、社債 318百万円

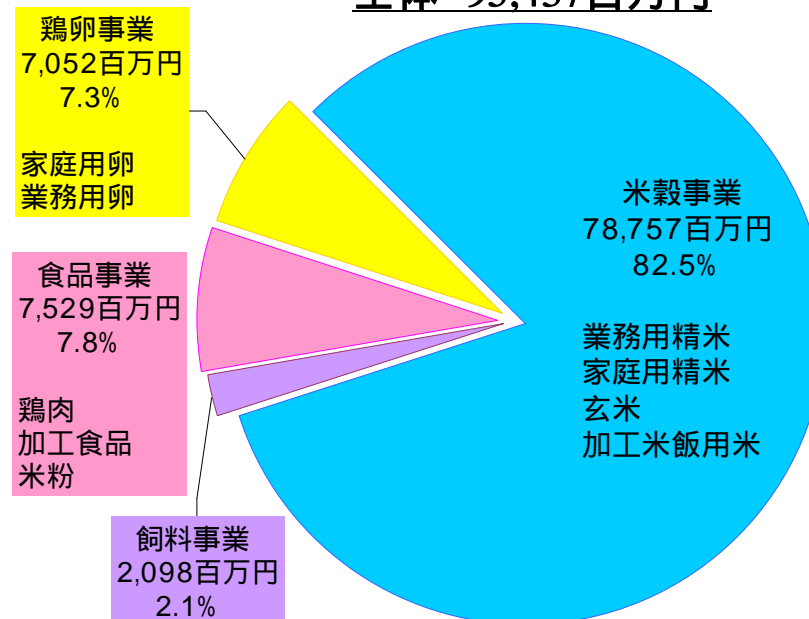


# 連結事業別の売上高

2005年12月期予想  
全体 98,000百万円

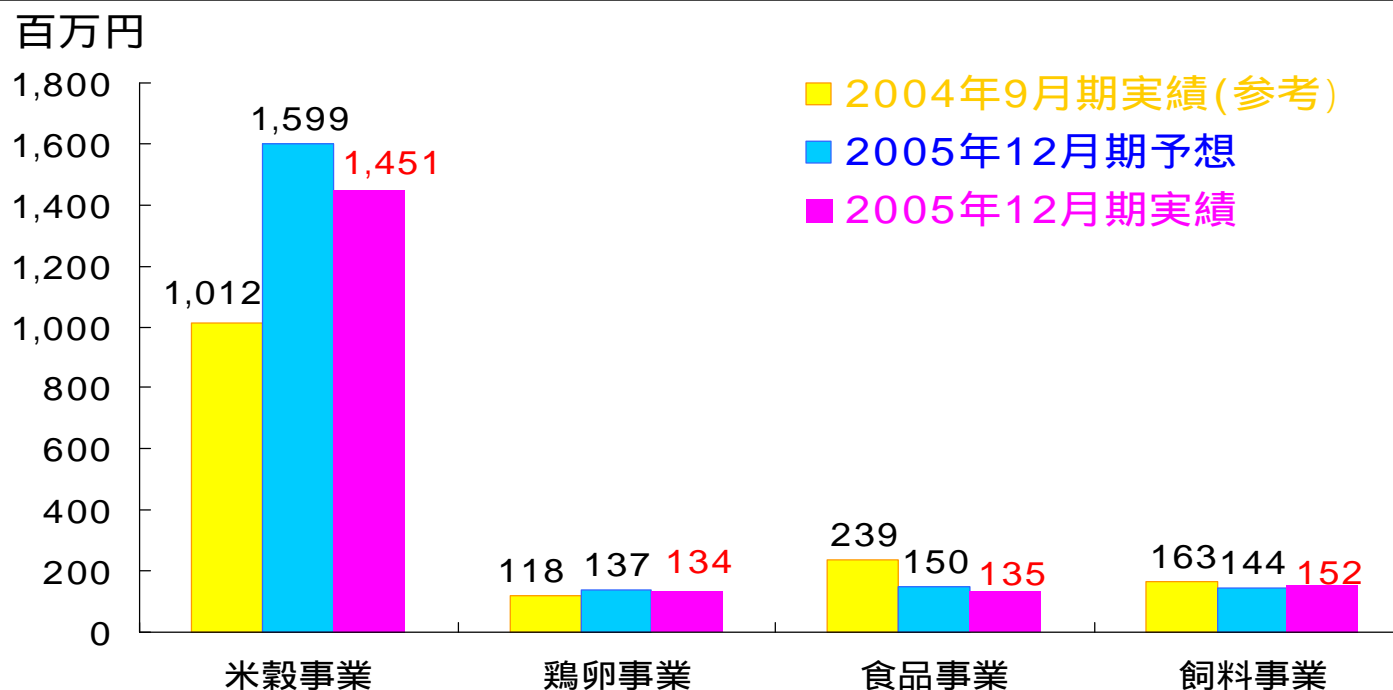


2005年12月期実績  
全体 95,437百万円



- 米穀事業      消費者低価格志向で卸売価格と小売価格ともに低下
- 鶏卵事業      上半期は卵価高継続、下半期は卵価軟化
- 食品事業      鶏肉は上半期が堅調、下半期が低調、惣菜は低調、米粉は順調
- 飼料事業      糟糠類、穀類が好調、牛用飼料が増加

# 連結事業別の営業利益



米穀事業 厳しい販売競争が継続、製造・管理コスト削減策を実施

鶏卵事業 堅調な特殊卵販売が寄与

食品事業 下半期は鶏肉の販売が低迷、惣菜は原料、資材高でコスト増

飼料事業 安定的に推移

# 具体的な成果

## 営業力の再生(西日本エリアの販売強化)

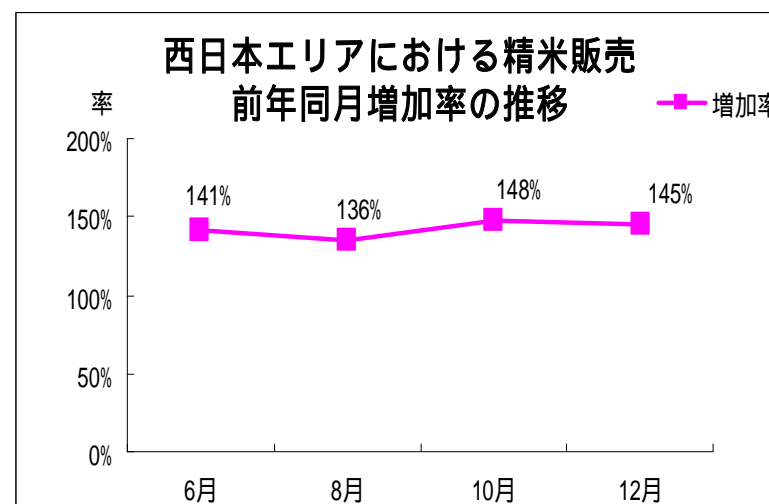
当社のメインマーケットは東日本エリアであるが、西日本エリアの拠点として備前食糧(株)【岡山県】のほか、昨年6月より関西支店滋賀工場を稼働した。製販一体の体制を構築し、西日本エリアにおける生産、販売規模を拡大している。



関西支店  
滋賀工場



備前食糧(株)



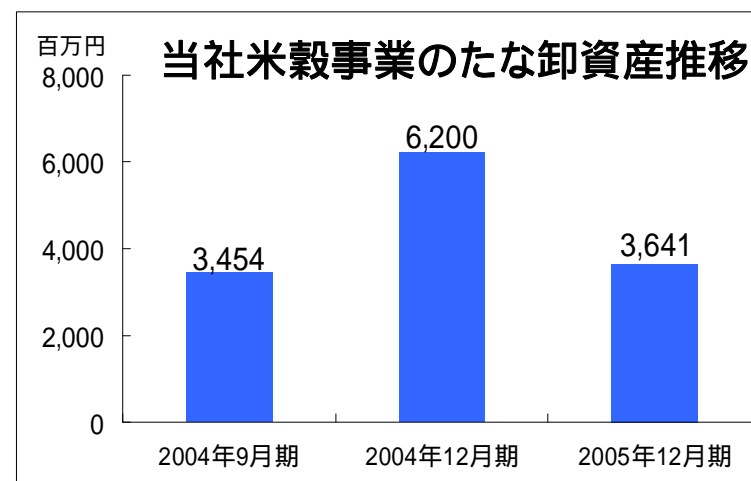
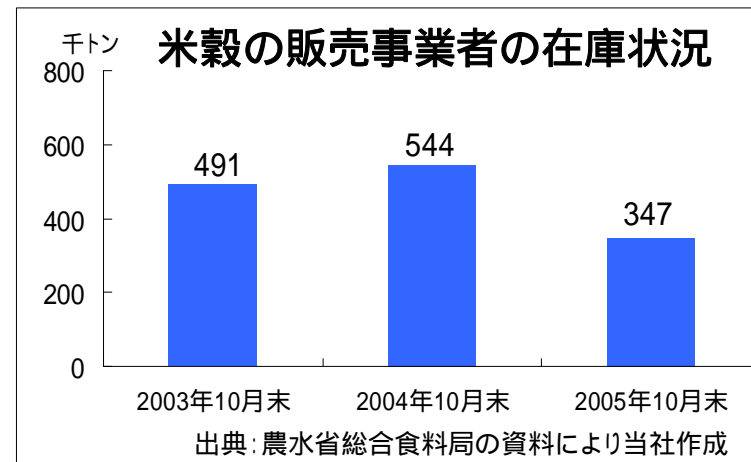
# 具体的な成果

## 営業力の再生(仕入の多様化と在庫の適正化)

15年産米が高騰した影響を受け、卸は在庫を積み上げた結果、2004年10月末米穀卸の在庫総数は54万トンに達した。

当社は、相対方式、入札方式、卸間売買などの多様な仕入手法を活用している。また、直接、生産地情報及び市場情報を収集・分析した上、小規模ながら農協より直接仕入を行っている。その他、販売実需を起点とする仕入管理を強化徹底している。

この結果、2004年12月期末では6,200百万円であった米穀事業のたな卸資産は2005年12月期末では3,641百万円に減少した。



# 具体的な成果

## 営業力の再生(付加価値米の販売強化)

たんぱく質調整米「越後」シリーズは、米飯タイプ、米粒タイプにおかゆ、せんべいを加え、年40%増のハイスピードで販売拡大を続けている。

たんぱく質調整米「越後」とは、コメのたんぱく質を87.5%カットした商品。



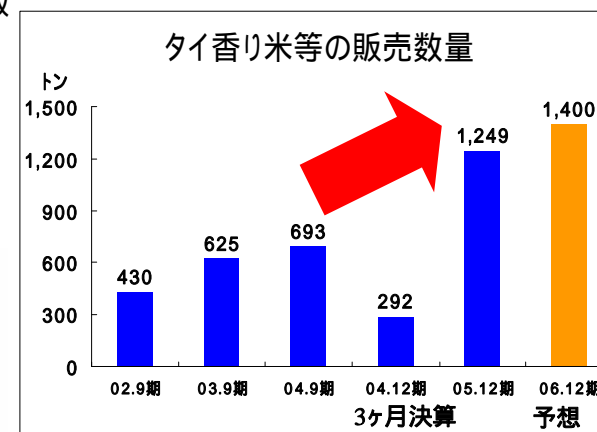
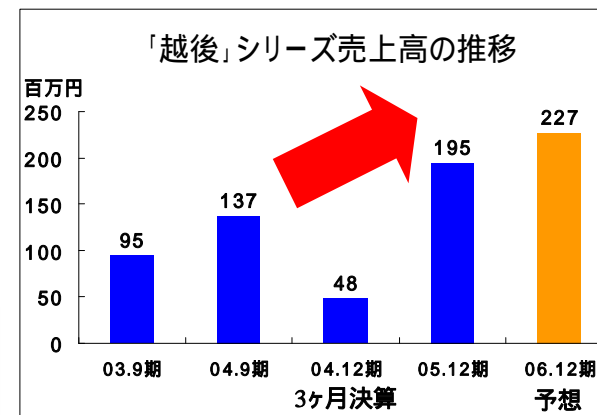
機能性米飯

長年国内市場を開拓してきた結果、良品質高付加価値のタイ香り米の販売は順調に拡大し、年間1,000トン超のベースを構築している。

タイ香り米とは、世界で評価の高い長粒種のコメ。当社はゴールデンフェニックスブランドを独占輸入販売。



新パッケージ



# 付加価値商品



多用途米粉



10パック入り1.4Kg

押麦入り胚芽精米



タイ香り米



「越後」シリーズ

# 具体的な成果

## 企業体質の強化(単体)

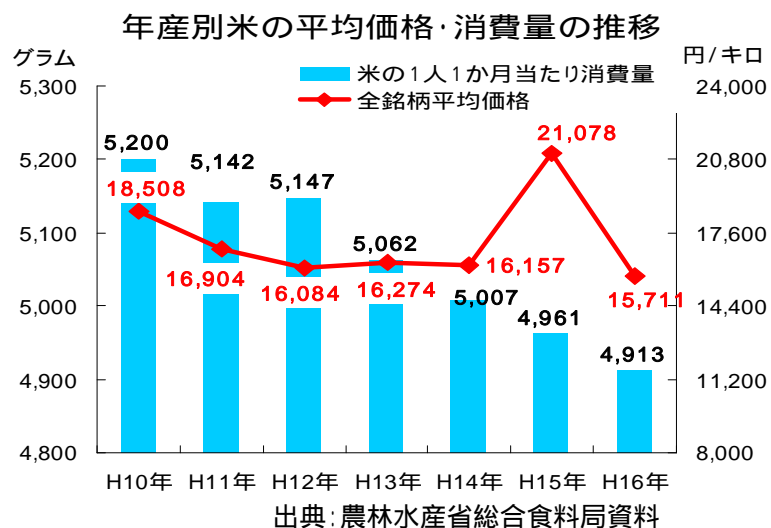
単位:百万円

項目	実績	目標	注記
在庫の適正化	2,359	2,500	平年の水準以下に 15日間分が適正在庫
設備投資の抑制	94	100	必要最小限水準に コメ加工食品事業に投資
ネット有利子負債の削減	3,819	1,000	短期・長期借入金の削減 現預金を圧縮
総人件費の削減	184	40	間接部門の人員削減 製造部門の効率化
一般管理費の削減 (人件費を除く)	30	30	効率的な経費使用

# 事業環境と中期の方針 および中期の目標



## 家庭用米の主食市場は衰退、 業務用米は低価格志向



新しい市場の開拓

マーケットは細分化し、主食としてのおコメと  
選択品消費財としての米関連商品に分かれる。  
コメ加工食品、付加価値のあるコメ商品、  
輸入米等の市場はさらに成長

自由化の進展  
流通の自由化から生産の自由化へ  
「新生全農米穀事業改革」の実施

コメの先物市場の可能性  
東京穀物商品取引所等がコメ先物  
試験上場申請

WTO農業交渉の進捗



規制緩和

独自性、差別化による卸機能の充実

コスト競争力の強化

グループの事業再編

## 独自性、差別化による卸機能の充実

消費者起点の姿勢に徹し、企画提案力を高めて  
消費者の満足を得られる商品とサービスを提供する。

グループ内の情報交換と人材交流を強化することを通して  
商品開発と営業活動においてシナジー効果を発揮する。

海外事業を強化する。

## コスト競争力の強化

製造、販売体制の融合を進め、工場を核とした製販一体型の組織に再編する。

機能別の工場づくりにチャレンジし、合理化促進のための必要な投資を行う。

営業、商品政策の見直しによる仕入と製造の効率化、物流コスト、管理コストの削減を進める。

## グループの事業再編

グループ内の既存事業と企業の見直しを推進し、  
事業環境に適応できる事業構成、企業グループを形成する。

グループ関連会社の再編に着手する。

# 中期の連結目標

営業力の再生： 売上高経常利益率 1%  
(2005年12月期 0.6%)

資本の充実： 株主資本比率 15%  
(2005年12月期 14.7%)

体質の強化： 有利子負債合計 150億円  
(2005年12月期 175億円)

2006年12月期に減損会計の適用により、株主資本が減少。

# 2006年12月期の業績予想



減損会計適用  
損失額は約1,100百万円

# 2006年12月期連結業績の予想



単位:百万円

項 目	2006年12月期予想	2005年12月期実績	注記
売 上 高	85,000	95,437	玄米数量減少 精米単価低下
販 管 費	6,025	6,486	一般管理費の削減
営 業 利 益	680	666	
経 常 利 益	390	532	賃貸収入の減少
特 別 利 益	50	155	
特 別 損 失	1,260	113	減損会計の適用
当期純利益	980	290	

# 連結事業別業績の予想



単位:百万円

項目	セグメント	2006年12月期予想	2005年12月期実績	注記
売上高	米穀事業	69,040	78,988	単価低下
	鶏卵事業	6,548	7,072	卵価安定
	食品事業	7,425	7,583	
	飼料事業	2,000	2,098	
消去及び全社		13	304	
合計		85,000	95,437	
営業利益	米穀事業	1,262	1,451	競争激化
	鶏卵事業	152	134	
	食品事業	286	135	米粉寄与
	飼料事業	152	152	
消去及び全社		1,172	1,207	
合計		680	666	

# 企業体質強化の継続

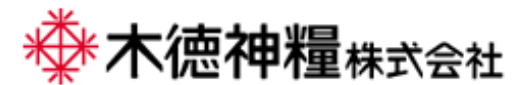
## 単体目標

単位:百万円

項 目	2006年12月期目標	2005年12月期実績
在庫の適正化	2,400	2,359
ネット有利子負債の削減	1,000	3,819
総人件費の削減	60	184
一般管理費の削減 (人件費を除く)	20	30

# 參考資料

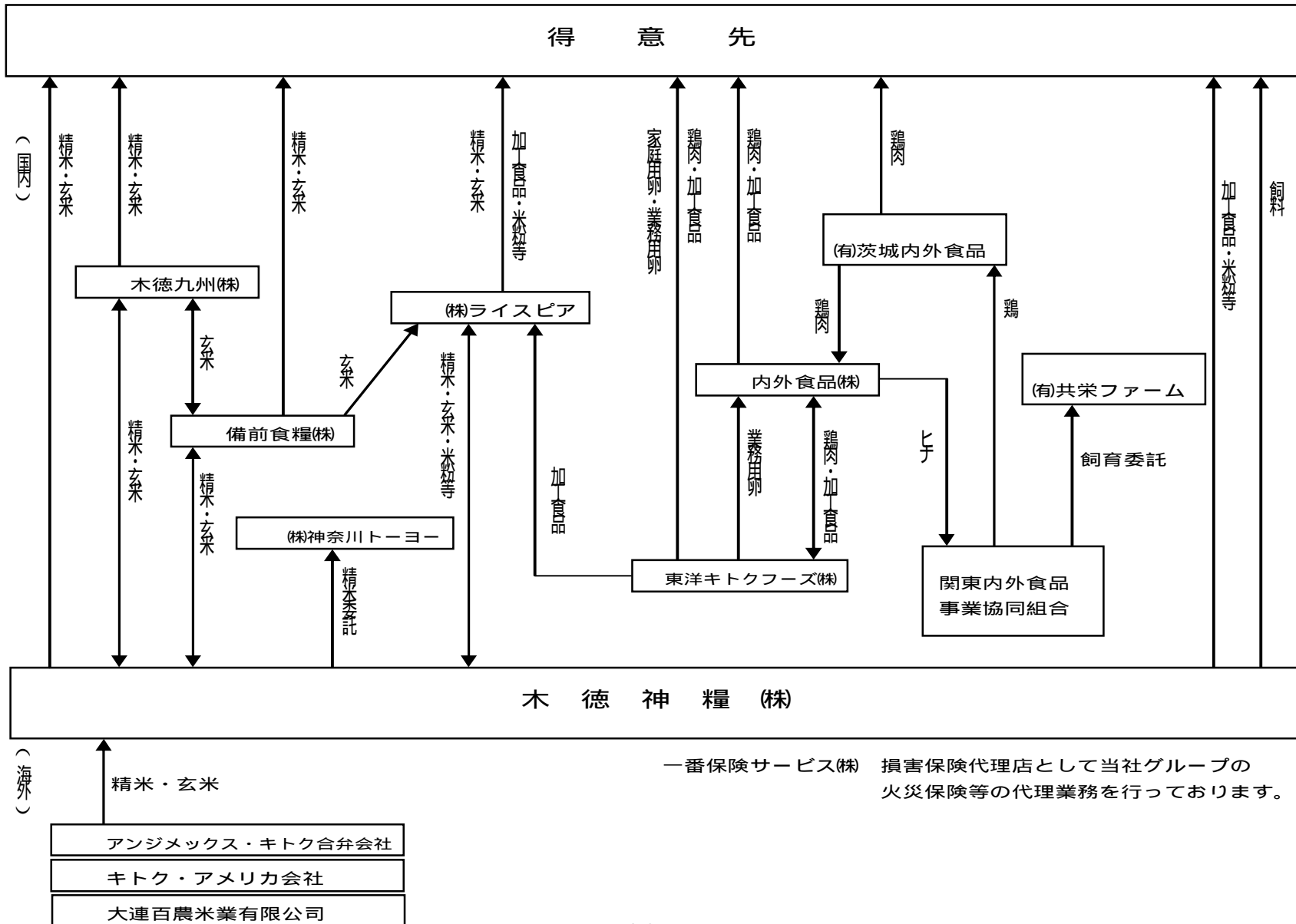
# 会社概要



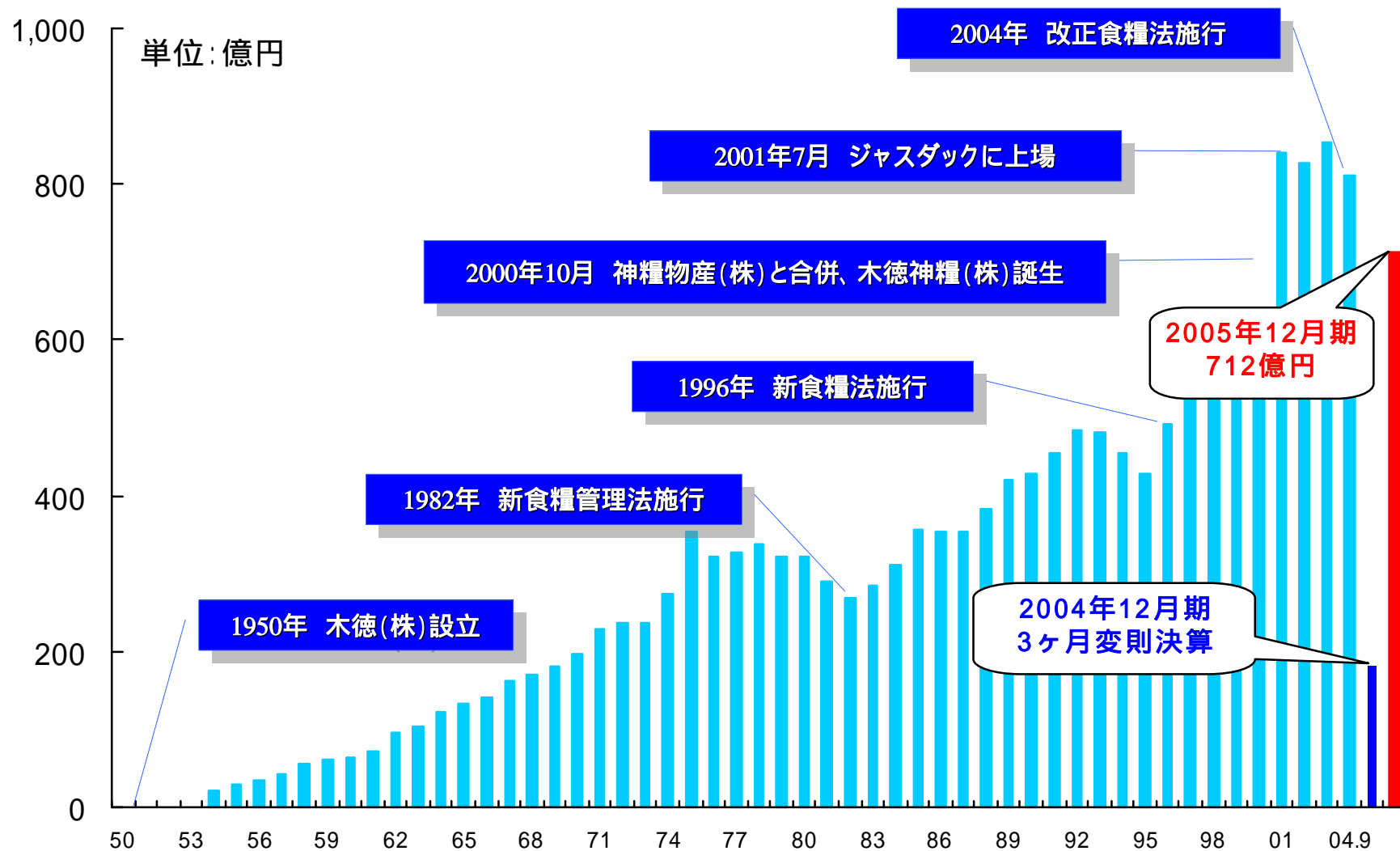
会社名	木徳神糧株式会社 (KITOKU SHINRYO Co., Ltd.)			
代表者	代表取締役社長 木村 良			
設立	1950年3月22日			
所在地	東京都品川区東品川2 - 2 - 24 天王洲セントラルタワー14階			
資本金	5億2,950万円			
事業内容	米穀事業、飼料事業、海外事業、コメ加工事業			
従業員	連結368名、単独150名(臨時雇用者を除く)			
連結子会社	(株)ライスピア、木徳九州(株)、備前食糧(株)、内外食品(株) (有)茨城内外食品、(有)共栄ファーム、東洋キトクフーズ(株)、 関東内外食品事業(協)、一番保険サービス(株)、キトク・アメリカ会社、 アンジメックス・キトク合弁会社			
大株主の状況	木村謙三	4.74%	発行済株式数	8,530千株
	木村初子	4.11%		株主総数
木村良	3.71%			
東京三菱銀行	2.81%			
稲垣辰彌	2.66%			

平成17年12月末現在

# グループの事業関係図

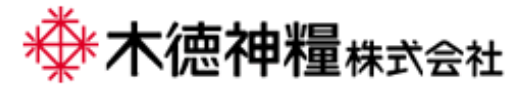


# 単独売上高の推移と沿革





# グループの主要生産・販売拠点



## 海外拠点



キトク・アメリカ会社  
(アメリカ)



大連百農米業有限公司  
(中国)



アンジメックス・キトク  
合弁会社(ベトナム)



新潟米粉工場



(株)ライスピア  
仙台精米工場



備前食糧(株)精米工場



内外食品(株)



木徳九州(株)精米工場



東洋キトクフーズ(株)

木徳九州(株)BG無洗米工場



桶川精米工場・飛翔館



本牧精米工場



木徳神糧(株)本社



滋賀精米工場



本資料のうち、業績予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等と異なる可能性があります。

お問い合わせ先

木徳神糧(株)管理部 小森

TEL : 03-5479-7119

FAX : 03-5479-6999

E-mail : [h-komori@kitoku-shinryo.co.jp](mailto:h-komori@kitoku-shinryo.co.jp)